

② 建築施工 I						
科目名	建築施工 I				実務授業の有無	○
担当教員	杉崎 善次					
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、授業の進め方	建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義一小テスト一解答一解説を繰り返し行うことで重要性を理解する。					
学習目標 (到達目標)	建築現場における現場の進め方や方法など、各職種ごとに学ぶ。前期は建築のしくみから地盤・基礎工事までの流れを学ぶ。工事を通じ建築に必要な専門用語も習得していく。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築施工、配布プリント等					
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	建築施工とは・工事契約 ①建築施工の概要と建築のしくみ。(設計一施工の流れ) ②建築物の施工形態を理解する。 ③施工者の選定や工事請負契約等工事監理者の業務		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	概算 ①建築物の費用に関する概算見積もりと算出方法 ②単価の積み上げによる建築工事全体の価格設定		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	施工計画・施工管理 ①施工計画・品質管理・原価管理の必要性と重要性 ②工程計画・工程管理・安全・環境管理の必要性、重要性。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
	小テスト①		項目1～3から抜粋し小テストで理解度の確認、解答一解説を行う。 準備学習：教科書①の予習			
4	地盤調査・測量 ①着工準備に伴う、地盤調査の種類 ②測量機器の種類		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
5	仮設工事 ①着工前準備工事の共通仮設工事・ ②直接仮設工事の違い、 ③確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題を追加習得しより理解度を深める 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	土工事 ①土工事に関する、掘削方法や山留め、排水と必要性 ③確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題を追加習得しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
7	基礎地盤工事 ①柱・基礎工事の種類、分類など建築物施工の基礎について ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題を追加習得しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
	小テスト②		項目4～7から抜粋し小テストで理解度の確認、解答一解説を行う。			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
期末テストの点に加え、小テスト、授業態度、出席率の内容を総合的に評価 期末試験70%、小テスト20%、授業態度・出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			施工は建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経歴 現場管理に10年、設計業務に10年携わる						

② 建築施工 I						
科目名	建築施工 I				実務授業の有無	○
担当教員	杉崎 善次					
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、授業の進め方	建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義一小テスト一解答一解説を繰り返し行うことで重要性を理解する。 4. 建築の基本となる構造体の主たる構造、鉄筋コンクリート工事の分野を学ぶ					
学習目標 (到達目標)	ここではその種類の施工方法や製品管理の仕方、材料の種類など詳しく学び、それが理解できる様になる。工事方法を通じ建築に必要な専門用語も習得していく。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築施工(市ヶ谷出版社)					
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	基礎地盤工事 (地盤工事) ①地盤工事の種類 ②杭工事の工法の種類や工事方法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	基礎地盤工事 (基礎工事) ①基礎の種類や構造、役目		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	鉄筋コンクリート工事 (鉄筋コンクリートの概要) ①鉄筋コンクリートの構成、種類、施工手順		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
4	鉄筋コンクリート工事 (鉄筋工事) ①鉄筋コンクリートにおける鉄筋の役割と重要性、 ②鉄筋の施工前検査や組み立て方法 ③製品検査について		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習			
5	鉄筋コンクリート工事 (鉄筋工事) ①鉄筋の継手、定着、かぶり厚さの意味 ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題を、理解度を深める。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	小テスト		項目1～5から抜粋し小テストで理解度の確認、解答一解説を行う。			
7	鉄筋コンクリート工事 (型枠工事) ①型枠の役割と構成、加工・組立		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
8	鉄筋コンクリート工事 (型枠工事) ①型枠の解体計画・存置期間・検査の方法 ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題で、理解度を深める。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
9	鉄筋コンクリート工事 (コンクリート工事) ①コンクリートの概要と性質、打設のプロセス ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題で、理解度を深める。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
10	小テスト		項目7～9から抜粋し小テストで理解度の確認、解答一解説を行う。			
11	鉄骨工事 (工場作業) ①鉄骨造の基礎部分のアンカーセットの工法や工程 ②材料の種類、ボルトの種類、 ③加工図、現寸検査などの役割 ④溶接方法 ⑤鉄骨部材の製品検査の方法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習			
12	鉄骨工事 (現場作業) ①鉄骨の建て方の工程 ②アンカーボルト、高力ボルトの役割 ③耐火保護との密着性		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
期末テストの点に加え、小テスト、授業態度、出席率の内容を総合的に評価 期末試験70%、小テスト20%、授業態度・出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			施工は建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経歴 現場管理に10年、設計業務に10年携わる						

② 建築施工 II						
科目名	建築施工 II				実務授業の有無	○
担当教員	杉崎 善次					
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、授業の進め方	建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義一小テスト一解答一解説を繰り返し行うことで重要性を理解する。					
学習目標 (到達目標)	建築物の構造躯体である鉄骨工事の分野から学んでいきます。この前期ではそのほかの内装工事であるいろいろな種類の施工方法や製品管理の仕方、材料の種類など詳しく学び、それが理解できる様になる。後期に目指す2級建築施工管理学科試験を覗んで、詳しく学んでいきます。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築施工 (学芸出版社)					
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	屋根工事 ①屋根工事の種類 ②雨仕舞の施工方法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	防水工事 ①防水工事の種類、納まりや手法 ②シーリング工事。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②の種類、方法を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	左官工事 ①左官工事にかかわる種類の種類 ②工程と施工方法。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②の種類、方法を理解する 準備学習：教科書①の予習			
4	タイル工事 タイルの種類とその施工方法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
5	石工事 ①張り石工事の施工方法と種類		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①の種類、方法を理解する 準備学習：教科書①の予習			
	演習 小テストを実施する。(2回実施予定)		項目4～7から抜粋し小テストで理解度の確認、解答一解説を行う。			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
期末試験で評価する。 課題等の提出物がある場合はそれも加味する。 期末試験40% 小テスト20% 授業態度20% 出席状況20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			施工は建築設計に必要な基礎知識として各工法を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経歴 現場管理に10年、設計業務に10年携わる						